

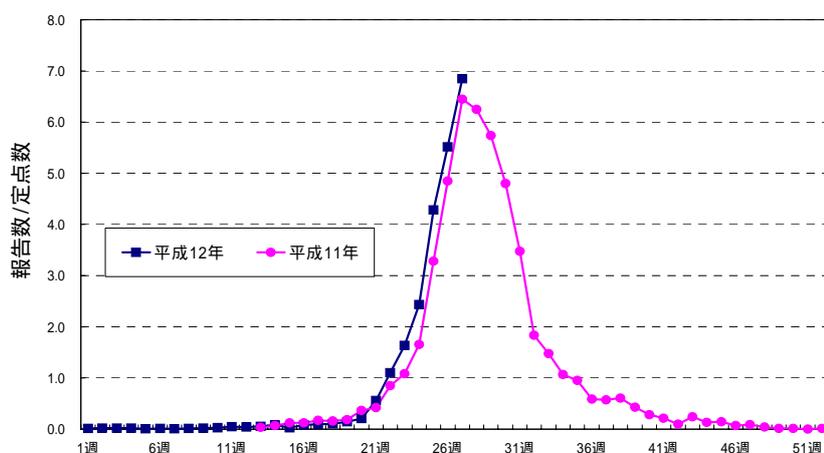
# 愛知県感染症情報

## 平成 12 年第 27 週（7 月第 1 週）

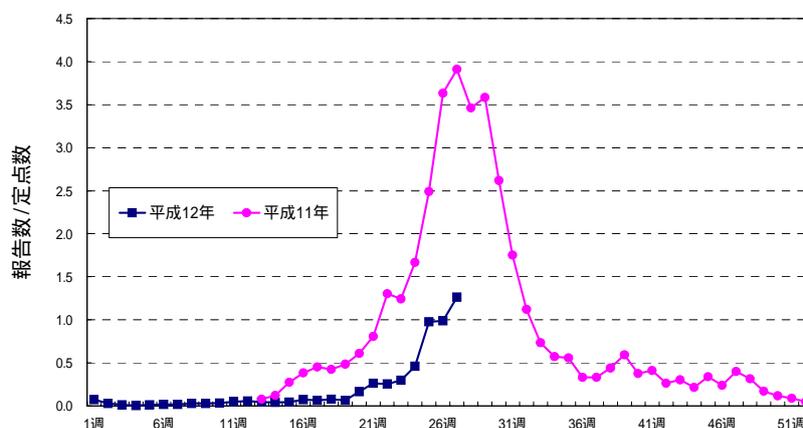
（コメント）

ヘルパンギーナ及び手足口病は引き続き流行しています。特にヘルパンギーナはピーク期をむかえているので注意してください。

感染性胃腸炎、水痘及び A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎のピークは過ぎました。



ヘルパンギーナ(名古屋市を含む。平成11年は、13週(4月1日～)から)



手足口病(名古屋市を含む。平成11年は、13週(4月1日～)から)

（先生方からのコメント）

### ● 尾張西部地区

- ・ ウィルス感染症と思われる高熱を伴う感染症が小学生を中心に流行中。

（一宮市 後藤小児科）

- ・ 溶連菌感染症が4～6歳児に急増してきました。  
ヘルパンギーナが0歳～4歳の乳幼児の間に大流行です。  
高熱が3～4日弛張する子が大部分です。

(尾西市 城後小児科)

- ・ 感染性胃腸炎の2名はカンピロ陽性  
(一宮市 平谷小児科)
- ・ ヘルパンギーナ、溶連菌感染症の流行が続いています。  
(江南市 みやぐちこどもクリニック)
- ・ ヘルパンギーナ、ムンプス(流行性耳下腺炎)目立っています。  
(岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック)
- ・ 伝染性膿痂症(とびひ) 3名  
(師勝町 師勝クリニック)
- ・ 当地区でヘルパンギーナの急増、小流行がみられます。  
(西春町 中村内科医院)
- 尾張東部地区
  - ・ 4日間ぐらい高熱が続く夏カゼ(?)がみられます。アデノチェック陰性、細菌感染でもなく、ウイルス感染の様です。  
(瀬戸市 津田こどもクリニック)
  - ・ ヘルパンギーナ急増中です。  
手足口病はまだ、みられません。  
(尾張旭市 佐伯小児科医院)
  - ・ 百日咳 1歳男  
(半田市 医療法人林医院)
  - ・ ヘルパンギーナが急に少なくなりました。高熱の気管支炎が流行しています。  
(春日井市 かちがわ北病院)
  - ・ ヘルパンギーナ多し  
(小牧市 小牧市民病院)
  - ・ 帯状疱疹1例(水痘ワクチン接種例です)  
(小牧市 志水こどもクリニック)
  - ・ 流行性耳下腺炎 5歳男(H8.9ワクチン済)  
E.Coli(病原性大腸菌)O-6 VT1・VT2(-) 1歳女  
ヘルパンギーナが増えてきました。  
(東海市 小児科ハヤカワ医院)
- 西三河地区
  - ・ 病原性大腸菌O-27及びO-8 1歳男  
(豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック)
  - ・ カンピロバクター 11歳男  
水痘、突発性発疹、ヘルパンギーナ増加  
(豊田市 やふそ小児科)

- ・ 病原性大腸菌 VT(-)  
(岡崎市 医療法人深田小児科)
- ・ 手足口病増加  
高熱を出す子多し  
(幸田町 とみた小児科)
- ・ ヘルパンギーナ、手足口病が目立ちます。  
(碧南市 永井小児クリニック)
- 東三河地区
  - ・ O-157(+)/ペロ毒素(-) 1歳女。  
ヘルパンギーナが流行中です。  
(豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科)

(1~3類感染症の発生状況)

腸管出血性大腸菌感染症患者 2名

- ・ 豊橋市保健所から報告の4歳男 6/27発病、6/20初診、6/26診定。  
菌型は、O-26 VT1(+).
- ・ 豊橋市保健所から報告の86歳男 6/27発病、6/20初診、6/26診定。  
O-157 VT2(+).

腸管出血性大腸菌保有者 1名

- ・ 豊橋市保健所から報告の12歳女 6/27発病、6/20初診、6/26診定。  
菌型は、O-26 VT1(+).

(全数把握の4類感染症の発生状況)

発生はありませんでした。

第25週(6月19日~6月25日)の4類感染症の全国状況

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数が例年の同時期よりかなり多く、過去10年間で最大の流行曲線を描いている。患者の年齢階級別で見ると、3歳から7歳の小児が全体の72%を占め、ピークは5~6歳にある。咽頭結膜熱は例年の同時期に比べ定点当たり報告数がやや多くなっている。手足口病は佐賀県、熊本県、鹿児島県など九州地方と、群馬県、奈良県、和歌山県などで定点当たり報告数が多くなっている。ヘルパンギーナも7月下旬のピークシーズンに向け患者報告数が増加している。麻疹の患者報告数は依然大阪で多く、北海道と青森県で増加している。

(Infectious Diseases Weekly Reportより抜粋)

厚生省感染症研究所感染症情報センター感染症情報)

## 愛知県衛生研究所企画情報部（文責 磯村）

モンソンに入ったインドのガンジス河中流域の農村の調査や雨期さなかの南ベトナムの山村の作業を思い出させるような高温多湿の毎日が続いています。いつも貴重な情報を有難うございます。6月後半のまとめをお送りします。

1. 名古屋市内：ヘルパンギナと手足口病が散発ないし増加中の地区が多くなりましたが同時に無菌性髄膜炎による入院例が毎日受診している地区と、軽症で合併症のみられない地区があります（第一日赤有吉先生、第二日赤岩佐先生、千種区今枝先生、名東区高橋先生、三菱病院岩間先生、中京病院柴田先生、大同病院水野先生；咽頭結膜熱やウイルス性扁桃炎も流行、時に細菌感染合併）。今年のエンテロウイルス流行株の主体は何型か、検査がすすみしいお知らせしたく思っています。咽頭結膜熱の散発は第二日赤岩佐先生からもいただきました。高熱が持続して肺炎を合併、入院を要するウイルス感染症が多発（大同・水野先生）、仮性クルブや気管支炎・肺炎の報告もいただき（第一日赤有吉先生、三菱・岩間先生、中京・柴田先生、大同・水野先生）、消化器感染症では感染性胃腸炎（千種区今枝先生、名東区高橋先生）、細菌性腸炎（三菱・岩間先生：病原性大腸菌O1、O18、O126、サルモネラO4で脱水による要入院例あり、大同・水野先生：サルモネラ、カンピロバクター、大腸菌）の報告が目につきました。溶連菌感染症も相変わらず各地で発生（第一日赤有吉先生、国立病院松下先生、千種区今枝先生、三菱・岩間先生）、第一日赤有吉先生からは川崎病、国立・松下先生からはヘルペス口内炎（入院例目立つ）とカポジ水痘様発疹症、名東区高橋先生からは風疹散発中とのお手紙です。麻疹の報告を第一日赤有吉先生と国立・松下先生（入院例目立つ）からいただきました。今後の発生状況を注目したいと思います。

2. 尾張地区：犬山市武内先生からはヘルパンギナ多発中で水痘、感染性胃腸炎が散発中、津島市民病院長田先生からは外来では溶連菌感染症、ムンプス、手足口病、ヘルパンギナ、病棟ではウイルス性肺炎が目立つ、常滑市民病院肥田先生からは溶連菌感染症とヘルパンギナの小流行あり、市立半田病院中島先生水痘、ヘルパンギナ、HHV6（ヒトヘルペスウイルス6）が少しみられるとのご報告をいただきました。

3. 三河地区：本日まで三河地区の先生方からのご連絡は豊橋市の宮澤先生お一人で、突発疹とヘルパンギナ、溶連菌感染症が目立ち手足口病をみるようになった、とのご報告でした。他の先生方からのお手紙は次回まとめさせていただこうと思っています。勤務先の関係で、このまとめを書ける時間帯が限られてしまい今回は早めになってしまいました。ご迷惑おかけして申し訳ありませんでした。

4. 今年も本格的な夏カゼの季節となりました。先生方の地区の夏カゼの発熱の状況とか口内発疹、咽頭痛、食欲などの症状や合併症の頻度など、外来などの現場で役に立つ情報をぜひお知らせ下さい。有難うございました。

2000年5月19日号（75巻20号）

風疹ワクチン：WHOの指針。WHOのワクチン・生物製剤部がワクチン拡大計画（EPI）の各ワクチンに関する勧告を各国に提言しているが、本報告は風疹ワクチンについての勧告である。先天性風疹症候群（CRS）の重要性はよく知られているがその実態調査、特に途上国における発生状況調査が実施されることが重要である。有効性と安全性が立証されているRA27/3株ワクチンの世界的な使用が勧告されている（本邦では国産ワクチンが接種されていて有効性と安全性ともに優秀）。麻疹対策も考慮に入れて、MMRワクチンをすすめたい。接種率を80%以上に保つこと。さもないと風疹感受性の成人が増加する。CRS対策として小児の大規模な風疹ワクチン接種を実施している地域では、妊娠可能年齢の女性の血清疫学調査を定期的に行って感受性女性蓄積状況の把握につとめること。

ワクチン開発以前の米合衆国の64～65年の流行では1,250万例が罹患、2万例のCRSが発症、世界的には現在も途上国だけでも年間10万例以上のCRSが発症、有効で安全なワクチン（他のワクチンとの接種間隔、混合ワクチン）の使用が望まれる。

ペスト、コレラ、黄熱の流行地区一覧：2000年5月18日における地域。県単位の発生地区一覧表。

インフルエンザ：2000年5月。ブラジル、チリ。共にA（H1N1）。

5月12日 - 18日届出。コレラ：ウガンダ、マヨット、インド。

2000年5月26日号（75巻21号）

黄熱：ナイジェリア。保健省が2例確認。カノ地区。WHO、ユニセフ、国境なき医師団が協力してワクチン接種計画中。

レジオネラ症：オーストラリア。前報後計76例（死亡2例）。メルボルン水族館入館者で4月11日～25日発病。

蚊対策に関する国際カンファレンス：2月28日～3月3日。マルチニック。デング熱と黄熱の媒介蚊、*Aedes aegypti* 対策として殺虫剤散布、余分な水の容器破棄、住民教育が進められているがデング熱の発生状況、黄熱の広がり（特に南米）、蚊の撲滅が出来ていないこと等から今後地域単位、国レベル、国際的な努力が必要である。

ポリオ根絶：アフリカ地区。99年1月～00年3月。1歳までの定期接種3回接種率は55%。全国一斉接種は1.33億人に実施（50%増）、急性弛緩性マヒの報告数やウイルス検体収集も増加中。主な発生国はナイジェリアやアンゴラ（国内難民）など。

髄膜炎菌髄膜炎（W135型）：2月28日以降の報告一覧。サウジアラビア241例（死亡例59）、英国31（5）、フランス18（4）等が注目される。

インフルエンザ（00年5月）：アルゼンチン、モリシャス、ウルグアイ。A（H1N1）、一部A（H3N2）。

5月19日 - 25日届出。コレラ：米国（輸入例）、香港。黄熱：ナイジェリア。